

平成 20 年度 事業報告書

(平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで)

学校法人 関西外国語大学

学校法人関西外国語大学 平成 20 年度 事業報告書

(平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで)

1 法人の概要

(1) 設置する学校・学部・学科等

関西外国語大学

大学院 外国語学研究科

外国語学部 英米語学科、スペイン語学科、留学生別科

国際言語学部 国際言語コミュニケーション学科

関西外国語大学短期大学部

英米語学科、国際コミュニケーション学科

(2) 当該学校・学部・学科等の入学定員、学生数の状況

(平成 20 年 5 月 1 日現在)

				入学定員	3 年次 編入定員	収容定員	在籍者数	定員比
大 学	大 学 院 外 国 語 学 研 究 科	前 期	英 語 学 専 攻	15		30	25	0.83
			言 語 文 化 専 攻	20		40	16	0.40
		後 期	英 語 学 専 攻	3		9	4	0.44
			言 語 文 化 専 攻	3		9	9	1.00
		計			41		88	54
	外 国 語 学 部	英 米 語 学 科		1,200	300	5,400	6,374	1.18
		ス ペ イ ン 語 学 科		250	25	1,050	1,179	1.12
		計		1,450	325	6,450	7,553	1.17
	国 際 言 語 学 部 国 際 言 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科			700	100	2,400	2,809	1.17
	大 学 合 計			2,191	425	8,938	10,416	1.17
留 学 生 別 科			400		400	408	1.02	
短 期 大 学 部	英 米 語 学 科		1,100		2,100	2,475	1.18	
	国 際 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科		0		350	376	1.07	
	短 大 合 計		1,100		2,450	2,851	1.16	
総 計			3,691	425	11,788	13,675	1.16	

(3) 役員・教職員の概要 等

役員 (平成 20 年 5 月 1 日現在)

理事 7 人 (うち、理事長 1 人、副理事長 1 人)

監事 2 人 (うち、常勤監事 1 人)

教職員数 (平成 20 年 5 月 1 日現在)

(1) 教 員		専 任	非常勤	計
大 学	外国語学部	167 (72)	134 (50)	301 (122)
	国際言語学部	75 (26)	29 (9)	104 (35)
	研究所等	4 (1)	10 (3)	14 (4)
	計	246 (99)	173 (62)	419 (161)
短期大学部	英米語学科	51 (8)	47 (21)	98 (29)
	国際コミュニケーション学科	10 (1)	7 (3)	17 (4)
	研究所等	1 (0)	0 (0)	1 (0)
	計	62 (9)	54 (24)	116 (33)
合 計		308 (108)	227 (86)	535 (194)
(2) 職 員		専 任	臨 時	計
中宮学舎		105	1	106
穂谷学舎		34	5	39
合 計		139	6	145
教職員合計		447	233	680

注 () は外国人教員内数

(3) 業者委託	167
----------	-----

(4) Mission [建学の理念]

本学の歴史は、太平洋戦争が終わった1945年、大阪市東住吉区に創立された谷本英学院に始まります。敗戦に打ちひしがれた廃墟の中で、二度と悲惨な戦争を繰り返してはならない、との強い決意を外国語教育に託して、第一歩を踏み出しました。

建学の理念には「国際社会に貢献する豊かな教養を備えた人材の育成」と「公正な世界観に基づき、時代と社会の要請に応じていく実学」が高々と、誇りをこめて掲げられました。

本学はこの建学の理念によって、時代を超えるエネルギーを与えられ、大きく発展し、品格のある学風を築き上げてきました。国公立大学とは違って、私立大学では、建学の理念がどこまで具現化され、発揮されているかが、その大学の存在を決めるよりどころとなっています。建学の理念こそが、過去と現在と未来を貫く行動原理です。絶えず時代の動きを見据えながら、どこまでも生かされていかなければならないのは創立者の理念であり、心なのです。

2 事業の概要

1 . 全体事項

平成 20 年度入学式

平成 20 年度の大学院、大学、短期大学の入学式が 4 月 2 日、中宮キャンパスの谷本記念講堂で 3 回に分けて行われ、編入学を含む新入生総勢 4339 人が入学した。内訳は大学院博士課程前期 17 人、同後期 2 人、外国語学部 1727 人（英米語学科 1421 人、スペイン語学科 306 人）、国際言語学部 801 人、短期大学部英米語学科 1301 人。3 年次編入学は外国語学部英米語学科 358 人、スペイン語学科 7 人、国際言語学部 126 人の計 491 人。

短期大学部の新規留学プログラムスタート - 希望者全員を派遣

短期大学部の平成 20 年度入学生を対象にした新規「短期留学プログラム」がスタートした。短期大学部生のみを対象とする春学期語学留学を新設し、既存の短期留学プログラム（秋学期語学留学、夏期語学研修、春期語学研修 = 学部・短期大学部共通）と合わせた 4 プログラムに振り分けた。

短期大学生の新規留学プログラムは、短期大学部の中宮キャンパス一元化に伴い、「異文化を体験し、学習意欲を高める」ことを目的に打ち出された。原則として希望者全員を派遣、短期大学生の場合は、どのプログラムでも、留学先の授業料は本学が負担する。

外国語学部「セメスター制」導入

外国語学部は、平成 20 年度からセメスター制を導入した。国際言語学部、短期大学部では、同制度を実施しており、全学的にセメスター制に移行した。この変更によって、1 学期終了時点で単位認定を受けることができるようになり、留学しやすい環境が整った。

谷本義高大学学長が、北方工業大学から「名誉教授」受ける

9 月中国・北京の北方工業大学から、谷本義高大学学長に「名誉教授」の称号が贈られた。

新理事長に谷本榮子氏就任

10 月 25 日の理事会で任期満了の谷本貞人理事長が退任し、谷本榮子新理事長（短期大学部学長）が就任した。任期は 5 年間。前理事長は総長職に留任した。また、理事に谷本義高大学学長、山本甫教授（国際交流部長）、田村幸男事務局長、山田善郎前顧問を、監事に竹田弘前理事を新たに選んだ。片山智行、宮田弘両理事、水口久監事は再任、堀井令以知、田村昭両氏は理事を、野村晃氏は監事を退任した。

将来構想検討委員会 スタート

本学の長期ビジョン策定を担う理事長の諮問機関「将来構想検討委員会」（委員

長・谷本義高大学学長)が1月発足した。テーマ毎にワーキンググループを設置して具体案を検討し、平成21年10月をめどに答申する。

春、秋学期に学期名称変更

本学は学則の一部を改定し、従来の「1学期」「2学期」の名称を「春学期」「秋学期」に変更することを決めた。平成21年4月から実施する。また、これまで入学時期を年度当初の4月に限定していたが、平成20年度に完全 Semester 制に移行したのに伴い、9月入学も認めることにした。

大学ランキング 5部門でトップ

全国の737大学を対象に、さまざまな機関が行った調査を集計したブランド力、教育環境、就職、研究、財政、入試など平成19年度のデータによると、留学生の派遣数 国際ボランティア参加者数 エコボランティア参加者数 キャンピングアテンダントの採用者数 編入学生数で全国1位。平成21年版大学ランキング(朝日新聞出版)で、本学が5部門でトップにランクされた。

「進学ブランド力調査」今年も上位にランク

国公立を含めた大学の知名度や魅力などについて高校生の意見を集約した、リクルート社による「進学ブランド力調査2008」の結果がまとまり、本学は関西で知名度14位(女子13位)、興味度13位(同7位)、志望度13位(同8位)だった。順位は昨年よりもアップし、ブランド力で格差が拡大する中で、本学の特色がくっきり現れた。

短期大学部国際コミュニケーション学科に幕

平成20年度限りで短期大学部国際コミュニケーション学科は事実上廃止された。昭和28年、大阪市住吉区の万代キャンパスに開設された「関西外国語短期大学」の流れを汲む、伝統ある存在であった。穂谷キャンパスの完成に伴い、昭和59年に万代キャンパスから移転し、平成12年には米英語学科から現在の学科名に改めた。しかし、学生の「4年制志向」が強まり、平成20年春、新規募集を停止。短期大学部は中宮キャンパスに一元化された。現在、海外留学中の学生1人が在籍している。

平成20年度学位記授与式 希望にあふれ3854人巣立つ

平成20年度の大学院、大学、短期大学部の学位記授与式が3月21日、中宮キャンパスの谷本記念講堂で3回に分けて行われ、総勢3854人が思い出深いキャンパスを巣立った。内訳は大学院24人、学部2462人、短期大学部1368人。大学院の4人が博士号を取得した。大学21人、短期大学部16人の計37人に成績優秀賞が贈られたのに加え、スペイン大使館の好意で今年初めてスペイン語学科の成績優秀者4人に駐日スペイン大使賞が授与された。

2. 学生確保対策

(1) 入試広報活動

「総合プロモーション戦略」始まる 地下鉄心齋橋駅で
合言葉は“GO FOR IT!”

本学のブランドイメージ向上作戦が4月1日から大阪市営地下鉄御堂筋線の心齋橋駅でスタートし、同駅構内の柱や壁は関西外大のイメージポスターと第1回オープンキャンパスの告知ポスターで埋め尽くされた。ポスターは14日までの2週間掲示され、同駅を利用する高校生や通勤客に関西外大をアピールした。さらに、平成21年2月12日から、同心齋橋駅に高さ1.9m、長さは13.1mもある帯状のポスターを掲示した。「Gateway to the World」のキャッチフレーズをつけ、世界に開かれた関西外大を印象づけた。

7回のオープンキャンパスに延べ8200人参加

第1回オープンキャンパスが祝日の4月29日、中宮キャンパスをメイン会場に開かれた。高校生や保護者ら総勢1150人が参加し、21年度の入学試験の概要説明を受けた。また、国際言語学部の魅力を高校生や保護者に知ってもらおうと、5月25日、「OPEN CAMPUS at HOTANI」が開催された。穂谷単独開催は初めての試みで、学生会などの学生主体で運営され、事前に申し込んだ約70人が参加した。

第7回オープンキャンパスが9月21日、中宮キャンパスをメイン会場に開かれ、高校生や保護者ら1850人が参加した。穂谷キャンパス単独の2回を含め、オープンキャンパス参加者は通算で8200人に上った。

高校教員対象の入試説明会 135人が参加

近畿2府4県と三重県の進路指導を担当する高校教員を対象とした本学の平成21年度入試説明会が7月11日、中宮キャンパスで開かれ、131校から135人が参加した。参加校は昨年より4校増えた。午後からは多くの教員がバスで穂谷キャンパスを訪問した。

「OB・OG教員」のつどい 来年からは毎年開催へ

第10回OB・OG中学校高校教員のつどいが7月12日、中宮キャンパスで開かれ、関西を中心に34人が参加した。OB・OGの教員は1020人を数え、谷本義高大学学長は、隔年開催してきたこの「つどい」を21年度から毎年開催する意向を示した。

3年次編入学説明会に500人

短期大学部の新2年生を対象にした本学の2学部への3年次編入学の説明会が3月16日、中宮キャンパスで開かれ、約500人が参加した。

(2) 入試

入試改革 - 特技入試に「自己推薦型」導入

平成 21 年度から外国語学部英米語学科の特技入試に、スポーツや文化活動で実績を残すなど、一芸に秀でた生徒を対象とする「自己推薦型」を導入した。学業以外の活動をより重視し、多様な能力を持つ人材を養成することが目的。特技入試は、特定のクラブを対象とする「種目限定型（A方式）」と「自己推薦型（B方式）」の2つとなった。

初の海外指定校・韓国と豪州の高校 6 校

初めて海外の高校（韓国の高校 1 校、豪州の高校 5 校）を特別入試の指定校にすることを決めた。海外の指定校は初めて。来春卒業予定の両国の高校生から「日本人学生に交じって日本語で授業を受けたい」との希望が寄せられ、本学も今後の海外の高校との提携を考慮、受け入れを決めた。

入試改革 - 「地方入試」と「高大連携特別枠」

平成 22 年度入試から 2 制度を新規導入する。一つは名古屋、広島、福岡の 3 都市で実施する「地方入試」で、受験生の利便を図るのが目的。もう一つは英語や中国語にとくに関心の高い受験生を確保するため、特別入試指定校の中に「高大連携」の特別枠を設ける。特別枠の導入に伴い、12 月までに関西の私立高校 3 校と高大連携の協定を結んだ。学生、生徒双方に学習機会の提供、教職員の相互交流を盛り込んでいる。

語学力向上コース開講 高大連携で新プログラム

指定校入試の「高大連携特別枠」導入に伴う新プログラム「語学力向上コース」が 3 月中旬から下旬にかけ、中宮、穂谷キャンパスで順次開講され、三つのコースに大阪、京都府内の連携校 11 校の高校生 37 人が春休みを利用して参加した。参加者は 4 月から 2、3 年生に進級する高校生で、三つのコースは、中宮キャンパスの「TOEFL スキルアッププログラム めざせ 500 点コース（5 日間）」、穂谷キャンパスの「メディア英語の達人養成プログラム ニュースで広がる英語の世界」（2 泊 3 日）、「中国語」育成プログラム 世界に通用する中国語エキスパート」（2 泊 3 日）。

平成 21 年度入試

平成 21 年度入試の志願者総数は外国語学部 7104 人、国際言語学部 3166 人の計 1 万 270 人、短期大学部 2987 人だった。少子化の中、志願者の減少が心配されたが、国際言語学部が国際メディア英語コミュニケーションコースの新設などによって約 56% 増となり、大学全体でも約 1% 増になった。合格者総数は大学 4250 人（外国語学部 2911 人、国際言語学部 1339 人）、短期大学部 2420 人の計 6670 人だった。特に、2 年間の海外留学につながる「英語特技入試」の合格者は前年度の 13 人から一挙に 50 人に増え、同入試は 2 年目を迎えて軌道に乗ってきた。3 年次編入学の志願者は 1127 人で、うち 537 人が合格した。合格者の

内訳は外国語学部英米語学科 394 人、スペイン語学科 8 人、国際言語学部 135 人。大学院入試は博士課程前期の志願者は 31 人で、24 人が合格、同後期の志願者は 3 人、うち 2 人が合格した。

来年度から学費値上げ

平成 21 年度からの大学新生生の学費改定を決定した。授業料を 3 万円、教育充実費を 2 万円、それぞれ値上げする。これにより、外国語学部と国際言語学部の初年度納付金は入学金 25 万円を含め、127 万円（諸会費 1 万 200 円を除く）となる。大学授業料の改定は平成 11 年度以来 10 年ぶり、教育充実費は 6 年ぶりで、年間授業料は 75 万円、教育充実費は 27 万円となる。

3. 教育研究

(1) 教育活動

短期大学部「K.G.C.ベーシックス」始まる 谷本榮子学長も講義

短期大学部英米語学科に新設された「K.G.C.ベーシックス」が 4 月 15 日、一斉に始まった。谷本榮子・短期大学部学長ら 29 人の教員が担任クラスに分かれ、週 1 回、1 年次の 1 学期（K.G.C.ベーシックス A）と 2 学期（同 B）に開講した。短期大学部の 2 年間をファーストステップと位置づけ、編入学、就職などのセカンドステップへ進むのに必要な常識や知識を身につけ、人間としての魅力を磨いた。

F D 委員会始動

大学設置基準で義務化された F D（ファカルティ・ディベロップメント）活動を担当する本学「F D 委員会」の平成 20 年度活動方針が 4 月 10 日に開いた第 1 回委員会で決まり、「関西外大 FD News Letter」の創刊号が発行された。「News Letter」は 6 月、10 月、平成 21 年 1 月にも発行する。委員会は「授業研究」やシンポジウムなどを掲載、F D 活動への全学的な取り組みを活発化させる。

「大学院教員リレー講義」実施

学内外の学生らを対象にした大学院担当教員リレー講義が実施された。毎回、大学院での学問分野などを担当教員が解説。大学院をめざす学生らの指針を示すと同時に、学部生と教員、院生の交流を深めた。

イタリア総領事が穂谷キャンパスで講演

ダビデ・ジリオ在大阪イタリア総領事が 5 月 15 日、穂谷キャンパスを訪問、国際言語学部の学生ら約 100 人に「イタリアの現状・日伊関係・EU の動向・環境問題」について英語で講演、中宮キャンパスにも遠隔装置で中継された。

平成 19 年度授業評価まとまる

平成 19 年度の授業評価の分析結果がまとめ、中宮、穂谷両キャンパスの学部、短期大学部の教務委員会が公表した。中宮キャンパスの回答総数は、外国語学部が 7 万 1147 件、短期大学部英米語学科が 1 万 6836 件、穂谷キャンパスは、国際言語学部が 2 万 895 件、短期大学部国際コミュニケーション学科が 6261 件だった。これらのデータを今後の授業改善に反映していく。

大学院の問題点を探る 文部科学省課長が講演

6 月 21 日、文部科学省高等教育局の中岡司・大学振興課長を招き、大学院のあり方についての講演会を中宮キャンパスで開いた。演題は「我が国の大学院の現状と課題」。本学と枚方市内 5 大学の教職員計約 60 人が参加した。

教育 G P に本学から 2 件選定される

9 月に文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム（教育 G P）」に本学の 2 つの教育プロジェクトが選定された。大学の「『ASEAN+3』大学コンソーシアム構想」と短期大学部の「ファーストステージで学びの進化をカタチに」で、対象期間は平成 20 年度から 3 年間。本学のプロジェクトが文部科学省の大学教育改革の支援プロジェクトに選定されたのは、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 G P）」に「学生人材バンクによる地域国際化の推進」が平成 18 年度に選ばれて以来。

「大学教育改革プログラム合同フォーラム」で本学の「教育 G P」を紹介

「大学教育改革プログラム合同フォーラム」（主催・文部科学省、財団法人文教協会）が 1 月 12、13 両日、横浜市のパシフィコ横浜で開かれ、本学は、「質の高い大学教育推進プログラム（教育 G P）」に選定された「『ASEAN+3』大学コンソーシアム構想」（大学）、「ファーストステージで学びの進化をカタチに」（短期大学部）の 2 教育プロジェクトを 1 日目のポスターセッションに出展、取り組み内容を紹介した。

D E L E（スペイン語検定）試験 本学が会場に決定

スペイン文部科学省が認証する D E L E（外国語としてのスペイン語検定試験）が平成 21 年 5 月から、本学を会場に実施されることが決定した。日本スペイン協会主催のスペイン語技能検定試験も本学で実施されており、スペイン語検定の運営では、本学が関西の中心的役割を担うこととなった。

（ 2 ）国際交流活動

平成 20 年度末の単位互換提携大学は、50 カ国・地域の 322 大学

国・地域別では、アメリカ 153、カナダ 19、オーストラリア 19、中国 15、スペイン 11 がトップ 5。

初の学位留学生受け入れへ 北方工業大学と調印

4 月 18 日、北方工業大学と学位留学制度に関する同意書を取り交わした。穂谷

キャンパスの国際言語学部が北方工大から留学生を受け入れる。本学で2年間学んだ学生について、取得単位を相互に認定し、両大学の学位（卒業資格）を授与。中宮キャンパスの留学生別科では海外からの留学生が学んでいるが、学位留学制度に基づく受け入れは初めて。

3年次編入学生受け入れ 韓国の2大学と協定結ぶ

本学は、韓国の東西大学、釜山外国語大学と「3年次編入学」受け入れの協定を結んだ。2大学の2年次修了生を外国語学部、国際言語学部の3年次生として編入学させるもの。最初の受け入れは平成22年4月になる。本学の教育G P「『ASEAN+3』大学コンソーシアム」の一環で、中国の北方工業大学に次ぐ受け入れになる。

大学院特別聴講生 上海外大から受け入れへ

上海外国語大学と大学院での特別聴講生を受け入れに関する協定を結んだ。平成21年9月には、同大学の日本語言語文学専攻（修士課程）で学ぶ学生を1期生として受け入れる。天津外国語学院からも同様の協定締結についての打診があり、今後、中国からの大学院生受け入れが活発化しそうだ。

20年度春学期 留学生別科修了式

留学生別科平成20年春学期の修了式が5月24日、中宮キャンパスで行われ、37か国184大学の406人が修了証書を授与された。

谷本義高学長は式辞の中で、別科が昭和47年に最初の留学生を迎えて以来、今年度の667人を加え、1万人に達したことを強調、「修了生がお互いに声を掛け合い、手を携えて国際交流に貢献して下さい」と要望した。

内モンゴル師範大学と協定結ぶ

6月4日、内モンゴル師範大学と単位互換提携協定を取り交わした。交換留学生を派遣し合う学生交流プログラムのほか、本学から学生を送り出す短期派遣プログラムと日本語教員インターンシップの協定が盛り込まれている。

秋派遣合格証書授与式 30の国・地域へ320人

平成20年秋、海外30の国・地域に派遣される長期留学生、日本語教員インターン生が決まり、6月14日、中宮キャンパスで合格証書授与式が行われた。

今回は、米国ニューヨーク州立大学オルバニー校への3年間の大学/大学院学位留学に4人が派遣され、米国の学士号、修士号と本学の学士号の3学位取得に挑む。このほかには学位留学（米国、中国、スウェーデン）や2カ国留学など2年間のプログラム24人、1年間の交換・推薦188人、英語/レギュラー留学58人、英語留学31人、日本語インターン留学8人、中国日本語教員インターンシップ7人がおり、総計320人。

中国の女子学生ら2人大学院に合格

平成20年度新設された大学院の「外国人留学生海外提携大学推薦入試」で、中

国の女性 2 人が合格し 9 月に入学した。制度新設の狙いは、優秀な外国人留学生の受け入れで、5 月と 11 月に選考が行われる。

留学生別科（2008-09 年度）39 か国・地域 432 人が入学

留学生別科（Asian Studies Program）の 2008-2009 年度入学式が 9 月 4 日、中宮キャンパスで行われた。今年度の入学生は 39 の国・地域、192 大学から 432 人（うち 35 人は春学期からの延長）。入学生のうち、最多は米国の 253 人、次いでカナダ 26 人、オーストラリア 25 人、英国 17 人、スウェーデン 12 人、仏・独各 9 人、韓国 8 人などとなっている。

『ASEAN+3』大学コンソーシアム」釜山外大・天津外語学院と協定

本年度から始まった文部科学省の教育 G P に選定された『ASEAN+3』大学コンソーシアム構想」の実現に向けた包括的提携に関する協定が、関西外国語大学・釜山外国語大学・天津外国語学院の 3 大学で合意に達し、10 月 31 日、釜山外大で同大学と関西外大の協定締結式が行われた。天津外語学院とは 11 月 10 日付で協定書を取り交わした。これで、コンソーシアム構想の第一歩を踏み出したわけで、今後、留学生相互派遣のための具体的な取り決めについて話し合う。

中国・天津市の小学生らが本学見学

中国・天津市教育修学訪日団の一行 49 人が 1 月 14 日から 3 日間、本学を訪問し、穂谷セミナーハウスに宿泊した。小学生 37 人と教員 12 人で、訪日団が本学を訪れるのは昨年に続き 2 度目。

春派遣留学生 71 人に合格証書

平成 21 年春に派遣される留学生の合格証書授与式が 1 月 15 日、中宮キャンパス本部棟の多目的ルームで行われた。合格証書を授与されたのは、9 か国 28 大学に派遣される 71 人で、1 年半の英語 / 推薦留学が 3 人、1 年の交換留学 29 人、英語 / レギュラー留学 35 人、日本語インターン 4 人であった。

留学生別科春学期スタート

留学生別科（Asian Studies Program）の 2009 年春学期が 2 月 2 日スタートした。今学期の学生は、39 か国・地域の 203 大学から派遣された 431 人で、このうち 204 人は 08 年秋学期からの延長組。08 年秋学期、09 年春学期合わせた留学生数は 43 か国 245 大学の 659 人。最多はアメリカの 385 人、次いでオーストラリア 51 人、カナダ 31 人、スウェーデンとイギリスの 18 人、フランス 15 人、韓国 14 人、オランダ 12 人、ドイツ 10 人などとなっている。

『ASEAN+3』大学コンソーシアム」が発足

中国、韓国、タイ、ベトナムから 4 大学学長が参加

平成 20 年度の文部科学省教育 G P に選定された本学の『ASEAN+3』大学コンソーシアム』の包括提携調印式が 3 月 30 日午後、中国、韓国、タイ、ベトナム

ム 4 か国の大学学長に本学の谷本義高学長、谷本榮子理事長らが参加して中宮キャンパス・マルチメディアホールで行われ、同コンソーシアムが発足した。式典に参加したのは天津外国語学院の修剛学長、釜山外国語大学の柳宣圭総長、バンコク大学のマサナ・サンティワット学長、ベトナム国立社会人文科学大学のブオ・ヴァンセン学長。

(3) 教育交流活動

学長杯スペイン語弁論大会 松嶋さんは 3 位

関西外大学長杯争奪スペイン語弁論大会が 6 月 1 日、中宮キャンパスで開かれた。出場者は本学 1 人のほか、神戸市外大 3 人、京都外大 2 人、立命館大 5 人の計 11 人。

全国イスパニア語弁論大会 野村さんが準優勝に輝く

天理大学主催の第 45 回全国イスパニア語弁論大会が 6 月 28 日、奈良県天理市の同大学で開催され、京都外大や神戸市外大など 6 大学から 13 人が出場、本学外国語学部スペイン語学科 4 年、野村明衣さんが準優勝に輝いた。

外国語学部英米語学科の学生 3 人がハワイ人文科学国際学会で発表

外国語学部英米語学科の学生 3 人が 1 月 9 日から 4 日間、ホノルルで開かれた「第 7 回ハワイ人文科学国際学会」で、「日本語の敬語における過剰矯正」と題して発表した。米国の言語学者から「興味のある内容」と高く評価された。

(4) 研究活動

片岡教授に研究助成 高梨学術研究奨励基金

財団法人・高梨学術奨励基金（東京）の平成 20 年度研究助成先に片岡修・国際言語学部教授の「シャウテレウル王朝による全島支配と地域社会の関係について - ミクロネシア連邦ポーンペイ島メチップ地域の考古学研究」が選ばれた。

研究論集第 89 号発刊

3 月に本学の研究論集第 89 号を発刊した。本号には、論文 8 編、研究ノート 2 編、計 10 編を掲載している。

現代 G P シンポジウム開催

11 月 8 日、本学が進める現代 G P 「学生人材バンクによる地域国際化の推進」に関連して、「TESOL と e-Learning による英語教育の活性化」をテーマとしたシンポジウムが中宮キャンパスで開催された。G P 活動で提携しているオーストラリア・フリンダース大学から 2 名の講師が参加した。

(5) 国際文化研究所の活性化

ニュースレター第1号発行

国際文化研究所 (The Intercultural Research Institute) の活動記録をまとめた「News Letter」第1号が、4月1日付で発刊された。学会の第一線で活躍する研究者らを招いて開催した例会やシンポジウムなどの報告を掲載し、本学の教育や研究活動に携わる教員らに役立ててもらおうことが目的。

例会・講演会を開催

国際文化研究所の例会と講演会が5月、6月に相次いで行われた。第111回例会(5月22日)は、英スワンジー大学応用言語学科のゲオフ・ホール博士、第112回例会(同26日)は、メキシコの作家・文芸評論家、クリストファー・ドミンゲス氏、第113回例会(6月20日)は、若島正京都大学大学院文学研究科教授が、6月18日の講演会では英・ウェストミンスター大学のパトリシア・アシュビィ博士がそれぞれ講演した。

「今日の英文法」テーマにシンポジウム

国際文化研究所主催のシンポジウム「English Grammar for Today」が9月10日、英国・ランカスター大学の名誉教授、ジェフリー・リーチ博士を迎えて中宮キャンパスで開かれ、本学の教員や大学院生、他大学の教員ら約50人が参加した。

英語音声学ワークショップに160人

国際文化研究所(IRI)主催の「英語音声学ワークショップ」が11月5日、中宮キャンパスで開かれた。講師はロンドン大学音声学科のマイケル・アシュビー主任と柳澤佳代子さん。参加者は約160人。

4. 社会貢献

(1) 自治体教育活動との連携協力

「小学校英語教育指導者養成講座」開講

大阪府内の小、中学校の教員を対象とする教職英語教育センターの「小学校英語教育指導者養成講座」(春期)が5月末~6月末に計5回、中宮キャンパスで開かれ、修了者に本学の「修了証」が手渡された。また、認定試験の合格者には「指導者認定書」を交付した。受講者は小学校を含む教諭20人と、教職課程を履修する外国語学部生10人、計30人。

英語でディベート初体験 中学生学びングキャンパス開く

英語を実際に使い、学習する楽しさを知ってもらおうと、教職英語教育センターは、6月14日、中宮キャンパスで枚方、寝屋川両市内の中学生を対象にした「中学生学びングキャンパス@関西外大」を開いた。このイベントは、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」の一環として、近隣市町村の小中

学生を対象に定期的に行っている。この日は、4 中学から 1～3 年生 16 人が参加した。

大阪市の教員向け「指導者養成講座」開く

小学校での「外国語(英語)活動」が平成 23 年度から完全実施されるのに伴い、教職英語教育センターと大阪市教委は 7 月 23 日から、中宮キャンパスの国際交流センターで、全国に先駆けて指導者養成研修講座を開講。30 日までの 6 日間、英語教育に関する本学のノウハウに加え、ネイティブ教員 8 人による「特別授業」が行われた。同講座は、小学校で授業を進めていく上で最低限の英語力を身につけてもらうことが狙い。大阪市内の市立小学校・特別支援学校(300 校)の外国語教育を担当する教員各校 2 人、計 600 人を対象に、平成 20 年と平成 21 年の 2 回に分けて実施する。

中宮キャンパスで「中学生サマーセミナー」

大阪府内の中学生を対象にしたサマーセミナー「『英語漬け』宿泊特訓道場@関西外大～夏だ！チャンスだ！チャレンジだ！～」が 7 月末、1 泊 2 日の日程で中宮キャンパスで開かれ 22 人が参加した。

守口市と英語教育で連携

10 月 7 日、守口市教育委員会と「連携協力に関する協定」を結んだ。今後、協定に基づき、本学学生を守口市の学校へ派遣し、英語教育を支援することや現職英語教員の研修などの交流が図られる。

「ディベートセミナー」開催

英国のディベーター(イギリスのイングリッシュスピーキング連盟職員、アンドリュー・フィッチさんとオックスフォード大学などの学生ら 4 人)を招いた「ディベートセミナー」(主催・日本英語交流連盟など)が 10 月 9 日夕、中宮キャンパス・マルチメディアホールであり、学外者を含む約 120 人が本場の英語ディベートを楽しんだ。

枚方市の子ども探検隊 中宮キャンパスを訪問

枚方市内 6 大学で構成する「学園都市ひらかた推進協議会」(会長、竹内脩枚方市長)が、市内の小学生高学年を対象に募集した「子ども大学探検隊」のメンバー 37 人が 10 月 18 日、中宮キャンパスを訪れ、施設見学や、学生食堂での昼食、英語学習に取り組むなど、束の間、学生気分を味わった。同推進協が、「枚方市内にある 6 大学に親しみをもってもらい、将来の夢をはぐくむきっかけにしてほしい」と平成 16 年度から始めた。本学への訪問は、3 年ぶり 3 回目。

「小学生学びングキャンパス@関西外大」開催

「小学生学びングキャンパス@関西外大」が、International Festival 開催中の 11 月 1 日午後、国際交流センターで行われ、小学生 48 人が参加した。まず教室で「世界各国のあいさつ」や「英語で話を聞く方法」を学習。先生役の外

大生（教職英語教育センターの人材バンク登録学生）14人の指導で、英語の質問を反復練習した。このあと、センター1階ラウンジに移動、「World Booth」で各国の留学生にインタビューした。

（２）公開講座

公開講座 ITCL公演 英語劇「ハムレット」

イギリスの劇団「International Theatre Company London (ITCL)」による英語劇「ハムレット」が5月20日夕、国際文化研究所主催の公開講座として中宮キャンパス・谷本記念講堂で上演され、外国人留学生や本学の教職員、学生、枚方市民ら約900人がシェイクスピア劇を堪能した。同劇団は平成4年に初来日し、春はシェイクスピア劇を各地の大学などで上演している。本学では平成17年の「リア王」以降4回目。

NHKラジオ「上方演芸会」公開収録

NHKラジオ第1放送の長寿番組「上方演芸会」の公開収録が6月13日夕、売り出し中の関西の若手お笑い芸人5組が出演して中宮キャンパスの谷本記念講堂で行われ、枚方市民や本学の学生、教職員ら約400人が楽しんだ。

公開講座 劇団クセックACT公演「ラ・セレスティーナ」

6月25日、谷本記念講堂において劇団クセックACTによる『ラ・セレスティーナ』（翻訳脚色・田尻陽一）公演が、催された。

特別公開講座「小学校英語教育指導者養成講座」

教職英語教育センター主催の特別公開講座「小学校英語教育指導者養成講座」（大阪府教委、大阪市教委後援）が8月上旬と中・下旬の2回、大阪・梅田の「毎日文化センター」で開かれた。大阪、京都、兵庫3府県の小学校教諭ら78人が参加し、歌や踊り、ゲームなどを使った小学生向けの「楽しい英語指導法」を学んだ。平成23年度から小学校5、6年生の授業で「外国語(英語)活動」が必修化されるのを前に、英語指導の具体的なノウハウを伝授するのがねらい。従来は中宮キャンパスだけで開いていたが、より広く参加者を募ろうと毎日文化センターとタイアップし、大阪都心部での初の講座開講を実現した。

公開講座「アルゼンチン・タンゴの歴史を尋ねて 第4回」

10月6日、中宮キャンパスで公開講座「第4回アルゼンチン・タンゴの歴史を尋ねて～古典曲を現代感覚で～」が開催された。出演は、日本のバンドネオン奏者の草分けの一人、門奈紀生さん率いる「アストロリコ四重奏団」と、アルゼンチン在住の日本の若手ソロシンガー、Sayacaさん。「アストロリコ」のバイオリン奏者、麻場利華さんが曲目やタンゴの歴史を紹介した。

公開講座 吹奏楽部「オータムコンサート」

外大祭最終日の11月2日午後、吹奏楽部の「オータムコンサート」が谷本記念講堂で開かれた。秋の公開講座とあって学生や教職員のほか、多くの市民が詰めかけ、約600人が参加。外大祭のフィナーレを彩った。

5. 学生支援

(1) 就職活動支援

平成19年度就職率まとまる

平成19年度卒業生の最終的な就職状況がまとまった。5月1日現在、大学は98.4%で平成18年度(98.5%)並み、短期大学部は98.5%で平成18年度より0.5ポイント上昇。ともに、全国平均(4月1日現在、大学96.9%、短期大学94.6%)を上回った。

就職ガイダンス

中宮キャンパスでは、キャリアセンターが5月9日、第1回就職ガイダンスを開催。出席者は約960人で平成19年度第1回よりも130人多かった。米国経済の低迷、原油高騰などによる景気後退が叫ばれる中で、就職活動に入った本学3年生にも危機感が漂っていた。穂谷キャンパスでも13日に第1回が開かれた。

進路意識向上策探る 教職員勉強会

学生のキャリアアップをめざし、教職員の勉強会が6月に相次いで開かれた。キャリアセンター主催で、19日は「自己発見レポート」の結果報告と活用がテーマ。教職員約30人が参加し、ベネッセコーポレーションの担当者によるデータ分析をもとに、進路意識の向上策などを探った。

平成20年春は92人が教員に

平成20年春の卒業生のうち小中高校の教員に採用されたのは92人だった。平成19年度より13人多く、内訳は専任教員が24人(高校3人、中学18人、小学3人)、常勤講師が48人、非常勤講師が20人。

保護者就職懇談会 全国から父母ら1200人出席

大学2、3年生と短期大学部1年生の保護者を対象に10月11日、中宮キャンパスの谷本記念講堂で「就職懇談会」が開かれ、全国から約1200人が参加した。金融危機、景気後退で、平成22年度の就職戦線は「売り手市場から買い手市場へ」という傾向がくっきり。この日は、真剣な表情で個別相談のアドバイスに聞き入る保護者の姿が目立った。

トップ講演会 開催

本学卒業生を講師に迎えたトップ講演会の本年度第1回が10月27日、中宮キャンパスのマルチメディアホールで開かれた。講師は1976年に外国語学部スベ

イン語学科を卒業した白石和幸さん。スペイン・バレンシア在住で、輸出商社社長を務める白石さんは「スペインでの30余年の生活で学んだこと」の演題で、海外ビジネスを始めたきっかけや語学を学ぶ後輩たちの進路についてアドバイスした。

第2回のトップ講演会が12月10日、中宮キャンパスのマルチメディアホールで開かれた。1980年外国語学部英米語学科卒業のエコートレーディング社長、高橋一彦さんが、「人とペットの真の共生について」をテーマに講演した。

外交講座 山野内北米一課長が講演

本学恒例の「外交講座」が10月29日、中宮キャンパスのマルチメディアホールであり、外務省北米局北米第一課長の山野内勘二さんが「アメリカ大統領選挙と日米外交の行方」をテーマに講演した。遠隔授業システムを使って穂谷キャンパスにも中継され、大学院や外国語学部、国際言語学部、短期大学部の学生ら約200人が受講した。今年からは一般市民にも公開した。

航空ガイダンス

航空業界を将来の進路として考える学生の第1回航空ガイダンスが12月20日、中宮キャンパスで開かれ、約500人が参加した。国内外の航空会社から客室乗務員などの内定を得た、本学の学生10人が、就職活動のポイントなどをアドバイスした。

航空業界を目指す学生のための第2回航空ガイダンスが2月23日、中宮キャンパスで開かれた。日本航空インターナショナル、JALスカイ関西、全日本空輸、エーエヌエースカイパルの4社が参加。谷本記念講堂で各社の担当者が自己紹介し、4教室に分かれて各社ごとに3回の説明が行われた。客室乗務員などで活躍する本学卒業生らの就職活動や職場での体験談、人事担当者による採用方針や試験の日程などに、計約1100人の学生が耳を傾けた。

就職マナー講座

平成22年春採用に向けての就職活動に役立てるため1月10日、中宮キャンパスの谷本記念講堂でお辞儀の仕方や電話での対応、面接での礼儀作法などの基本的マナーについて就職マナー講座が開かれた。

キャリア講座 28回開催

各業界の採用担当者らの話を聞く平成20年度の「キャリア講座」最終回の28回目が1月15日、中宮キャンパスで開かれた。28回目の今回は「テーマパーク業界」。人気のUSJを運営する株式会社ユー・エス・ジェイから講師を招き、約150人が参加した。

企業セミナーに7000人

就職希望の学生に採用側の人事担当者らが情報提供する「企業セミナー」が2月12日から20日にかけて中宮キャンパスで開かれた。参加企業は191社で、実質7日間開かれ延べ約7000人の学生が出席。教室や学生ラウンジに設けたブ

ースでは、各社の担当者が自社の業績や業務内容、採用のポイント、必要な人材などを詳しく説明した。開催中の13日から、午前中に就職活動基礎講座を開講。自己分析の仕方や筆記試験対策の講義があり、延べ約700人の学生が受講した。

平成21年春の内定実績まとまる

平成21年春卒業した就職希望者の内定率(3月1日現在)がまとまった。大学は93.2%(前年同期95.8%)、短期大学部は76.9%(同88.3%)で、経済動向を反映し前年を下回った。

6. 施設・設備

穂谷初の留学生宿舍「国際交流セミナーハウス」が完成

穂谷キャンパスで初めての留学生宿舍「穂谷国際交流セミナーハウス」が完成し、12月22日、谷本榮子理事長ら関係者が出席して竣工式が行われた。鉄骨造り3階建てで、キャンパス隣接地の旧教職員住宅跡地に新築した。合計20の個室があり、中国からの交換留学生ら16人が入居した。

7. その他

中国・四川大地震 学生会が救援金募る

中国・四川大地震で、本学でも穂谷、中宮両キャンパスの学生会などが中心になって救援募金活動を行い、5月26日に中国駐大阪総領事館の劉占山教育室長(領事)に手渡した。中国交流センターがあり、中国からの留学生が学ぶ穂谷キャンパスでは、被害拡大を知った学生会会長らが提案。募金を呼びかける立て看板やチラシを作り、学生や教職員に協力を訴えた。中宮キャンパスでも学生会などのメンバーが募金活動に取り組んだ。

中国政府から図書、DVD本学に寄贈

穂谷キャンパスの図書館学術情報センターに中国政府から中国語の図書571冊とDVD、CDなど301枚が寄贈され、5月26日、中国駐大阪総領事館の劉占山教育室長や本学の谷本義高大学学長、谷本榮子副理事長らが出席して寄贈式が行われた。穂谷キャンパスには「中国交流センター」が開設され、平成19年秋以降、北京語言大学や、やはり北京にある北方工業大学の交換留学生らを国際言語学部で受け入れるなど、中国文化圏との本学の交流の拠点となっている。図書とDVDなどは中国の歴史や地理、紀行、社会、文化、語学、医学、武道、ドキュメントなど、多岐にわたっており、「中国政府寄贈書コーナー」を設置して学生らに貸し出している。

3 財務の概要

(1) 学校法人関西外国語大学の平成 20 年度決算について

決算概要は以下のとおりです。この決算は監事及び公認会計士の監査を受け、評議員会の意見を聴き、理事会で決定したものです。

収入は、補助金収入の伸び悩みや 18 歳人口の減少を反映した入学志願者の減少による手数料収入の減少があったが、学納金収入の増加、資産運用収入の増加等があり、予算比増加となりました。

支出は、穂谷学舎教室棟改修工事、穂谷学舎国際交流セミナーハウス新築工事、下水道改修工事や中宮学舎無線 LAN 設備工事等を除いて、大規模な施設・設備の新築・整備事業がなかったこと、教育研究費や管理経費の増勢を経営努力でカバーしたことにより、予算比減少となりました。

この結果、財政の健全性を十分に確保した決算となりました。

資金収支計算書

資金収支の合計額は、306 億 8084 万円（予算比 10 億 7314 万円増）です。

主な収入は、学納金収入 140 億 116 万円（同 1 億 4116 万円増）、手数料収入 4 億 814 万円（同 186 万円減）、補助金収入 6 億 7484 万円（同 516 万円減）、資産運用収入 7 億 4069 万円（同 1 億 2069 万円増）、前受金収入 83 億 7255 万円（同 8 億 5255 万円増）となっています。

主な支出は、人件費支出 41 億 6926 万円（同 74 万円減）、教育研究経費支出 24 億 7098 万円（同 1 億 7002 万円減）、管理経費支出 8 億 6034 万円（同 7666 万円減）、施設関係支出 4 億 4314 万円（同 1 億 6086 万円減）、設備関係支出 2 億 3702 万円（同 4 億 5098 万円減）、資産運用支出 75 億円（予算どおり）となっています。

消費収支計算書

帰属収入合計は 160 億 3844 万円（予算比 2 億 7544 万円増）、基本金組入額は 58 億 6046 万円で、消費収入合計は 101 億 7797 万円（同 9 億 1697 万円増）となっています。

主な消費支出は人件費 41 億 6560 万円（同 360 万円減）、教育研究経費 38 億 586 万円（同 1 億 6814 万円減）、管理経費 11 億 9274 万円（7426 万円減）、除却による資産処分差額 3795 万円（同 695 万円増）で、消費支出合計は 92 億 880 万円（同 2 億 4385 万円減）となっています。

その結果、当年度収支差額は 9 億 6917 万円の収入超過となり、前年度繰越消費収入超過額 13 億 412 万円を加えた翌年度繰越消費収入超過額は 22 億 7330 万円となっています。

貸借対照表

資産の合計は、1611億5373万円で、前年度末に比べて68億2047万円増加しています。これは主として第2号基本金、第3号基本金、減価償却引当特定資産への繰入れに伴う「その他の固定資産」の増加によるものです。

負債の合計は101億3543万円で、前年度末に比べて917万円減少しています。

基本金は1487億4500万円で、前年度末比58億6046万円増加しています。第1号基本金が3億6046万円、第2号基本金25億円、第3号基本金30億円それぞれ増加したためです。

当法人において運用する金融商品は、満期保有目的の債権である。これらの債権は満期償還時に、元本が保証されており、運用期間中の時価が貸借対照表計上額を下回っていても、その差損が実現する可能性はきわめて低い。なお、仕組債については、本表に含めて記載している。

まとめ

「18歳人口」の減少により、本学の学納金や検定料など主要な収入の減少を招くことが十分考えられます。一方、教育・研究の一層の充実を考えると、人件費や教育研究経費、管理経費などの増加傾向が続くことは必至です。

経営環境は厳しいものがありますが、学生の夢と希望を育む大学として教学面での一層の充実を図ると同時に、教育環境のさらなる整備・充実を進め得る財政運営を継続していく方針です。

(2) 財務比率の推移

(単位：%)

比率名	算式	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入} - \text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	44.0	43.5	40.2	44.6	42.6
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	101.4	97.7	96.6	105.4	90.5
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{帰属収入}}$	90.1	89.7	88.4	88.7	87.3
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	26.1	25.7	25.7	25.4	26.0
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	22.2	22.9	24.4	22.2	23.7
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	6.6	7.4	7.5	7.3	7.4
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	176.9	173.1	173.2	159.1	160.9
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}^1}$	8.6	7.9	7.5	7.0	6.7
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}^2}$	92.1	92.7	93.1	93.4	93.7
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

1 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額

2 総資金 = 負債 + 基本金 + 消費収支差額

4 ご参考

(1) 学部・学科等の入学定員、学生数の状況

(平成21年5月1日現在)

				入学定員	3年次 編入定員	収容定員	在籍者数	定員比
大 学	大学院 外国語学 研究科	前期	英語学専攻	15		30	21	0.70
			言語文化専攻	20		40	21	0.52
		後期	英語学専攻	3		9	3	0.33
			言語文化専攻	3		9	6	0.66
		計			41		88	51
	外国語学 部	英米語学科		1,200	300	5,400	6,435	1.19
		スペイン語学科		250	25	1,050	1,193	1.13
		計		1,450	325	6,450	7,628	1.18
	国際言語学部 国際言語コミュニケーション学科			700	100	2,600	3,002	1.15
	大学合計				2,191	425	9,138	10,681
留学生別科				400		400	429	1.07
短期 大学部	英米語学科		1,100		2,200	2,612	1.18	
	国際コミュニケーション学科		0		0	1		
	短大合計		1,100		2,200	2,613	1.18	
総計				3,691	425	11,738	13,723	1.16